



サトリの ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗両親閣妙蓮寺住職
上村貞雄さん

第69回

私が住職を務める妙蓮寺は、日蓮聖人のご両親のお墓をお守りしているお寺です。日蓮聖人は、ご両親をとて大切にされてきました。ご両親と一緒に暮らしたのは12歳までで、その後は修行や布教などで離れて暮らしましたが、どこにいても故郷・小湊の空を拝み、ご両親に対して手を合わせていらつしやいました。心持ちは常に「ご両親と一緒だったのです。」

そのような山緒がある当寺のメインテーマは「親孝行」。日蓮聖人は「知恩報恩」という仏様の教えを説かれましたが、これは恩を知

り、恩に報いることが大切という意味です。私たちは父母から受ける恩をはじめ、さまざまな恩によって生かされています。この親孝行のお寺で手を合わせることで親の恩に思いを馳せ、恩に報いる生き方を実践していただきたいと思っています。

互いを思い合う親子関係が よりよい社会作りの根本

私たちがこの世に生まれ、最初にできるのが親子関係。しかし最近はその子が親を殺めたり、親が子を虐待したりという悲しいニュースをよく耳にします。親子の絆が薄れ、思いやりの心が失われつつある時代なのかもしれません。でも、社会を作っていく一番の根っこは親子関係。根がしっかりとついていると樹（社会）は育ちません。

子は親に思いを馳せ、親は子を慈しむ。これが親子の基本です。離れて暮らしているため親の面影を見ることができないという人は、月に1度は電話するなどして親との交流を。年1回のお盆くらいはお墓参りをし、親や先祖に感謝の心を捧げましょう。

共働きで子どもと触れ合う時間が少ないお母さんは、一緒にいられる時間はめいっぱい甘えさせて、スキンシップをしっかりとること



上／眼下に太平洋を望む妙蓮寺。「両親閣」として知られ、全国から参拝者が絶えない。
下／御廟堂には日蓮聖人のご両親の像と石塔が奉安されている。

が大事です。「子どもにも迷惑をかけたくないから葬式はしなくていい」という人がいますが、亡くなったときくらいは子どもにも迷惑をかけてもいいのです。親が亡くなったのにお葬式をあげないと、子どもは自分の心に折り合いがつけられません。「最期くらいはきちんと送りたい」と考えるのが子どもの報恩の心であり、それでこそ本当の親子といえるでしょう。

妙蓮尊儀750遠忌を契機に 親子の関係を見つめ直して

日蓮聖人のお母さんである妙蓮尊儀が亡くなって今年で750年。当寺では9月14日（水）15日（木）に、750遠忌の大法要を行います。この法要に伴い、「お母さんのおちをありがとう」と題して報恩のメッセージを募集しています。お母さんへの感謝の気持ちをメッセージカードに記し、お母さんと一緒に写った写真とともにお送りください。この報恩の実践によって、みなさんひとりひとりが親子関係を再び見つめ直し、感謝の心を思い起こしてくださることを願っています。

親孝行のお寺で手を合わせて への感謝の心を思い出して



うえむら・ていおう 1948年生まれ、千葉県出身。立正大学仏教学部卒業。1996年、妙蓮寺の住職に。2007年より8年間、日蓮宗千葉県南部宗務所所長を務める。1998年より現在まで保護司も務めている。妙蓮寺／〒299-5501 千葉県鴨川市小湊129 ※「お母さんのちをありがとう」メッセージは妙蓮寺ホームページ(<http://www.ryoushinkaku-myourenji.or.jp>)より専用紙を印刷のうえ上記住所まで郵送、またはメールでもご応募いただけます。